

2023年 第31回古着募集要項

1993年より続けてきました難民キャンプへの古着の送付は2021年度をもって終了いたしました。2022年度からはご寄付いただく古着は国内外で再利用またはリサイクルし、お寄せいただく募金は、ウクライナやケニア等の難民支援、その他当団体の活動のために使わせていただきます。今後とも皆さまのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1：募集期間

2023年6月1日(木)～15日(木)

2：集める古着の種類

夏、冬、大人、こどもの古着全般 Tシャツ、Yシャツ、トレーナー、ジャージ、ズボン、スカート、ジーンズ、背広・スーツ、カーディガン、セーター(ウール可)、コート(ダウン可) 和服、毛皮、ベルト、ネクタイ、帽子、ハンカチ、靴下、ハンカチ、ぬいぐるみ、

※大量には受け付けられないもの：会社の作業着、ユニフォームなど、会社の作業服、学校などで使用した制服やジャージ類

3：送り先(送料は各自ご負担ください)

衣類はきれいに洗濯して畳んだものを段ボール箱に入れて、以下の宛先までお送りください。

〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦2-8-6
ナカノ株式会社エコムナ横浜工場「わかちあいプロジェクト係」
Tel.045-701-6263

・募集期間中 持ち込み不可(古着に関する問い合わせは、わかちあいプロジェクトTel. 03-3634-7809まで)

4：募金のお願い

段ボール1箱あたり 1000円の募金をお願いいたします。

・使用目的：

1. 難民支援のため
2. その他、わかちあいプロジェクトの活動のため

5：古着の再利用とリサイクル

昨年「カーボンニュートラル」という言葉をよく耳にするようになり、地球温暖化対策としてCO²の削減は緊急の問題です。日本では年間約100万トンの古着の大半が自治体により集められ、70%はゴミとして焼却処分されているといわれます。古着は再利用、リサイクルが可能であるにもかかわらず、焼却しているのが日本の現実です。古着の焼却処分ですでにCO²を出しているのでしょうか。

※カーボンニュートラル=温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること 衣類のうち綿はカーボンニュートラルの考え方でCO²発生量は0でいいと思います。しかし、残は合成繊維として排出係数は2.29kg-CO²/kg(環境省、算定方法、排出係数)で計算しますと、わかちあいプロジェクトは皆様から、古着を毎年、約100トン集めています。その50%の50トンが化繊としますとCO²を約114トン削減していることとなります。植林で計算しますと、約8100本植えたことに相当します。

※集まった募金は、世界ルーテル連盟を介しウクライナ避難者の支援、ケニアのカクマ難民キャンプへの支援、その他当団体の活動のために使わせていただきます。

※募金は衣類と同梱しないようお願いいたします。

郵便振替口座 一般社団法人わかちあいプロジェクト募金
00120-4-386390
通信欄に「古着募金」と記入

クレジットカード

当団体HPよりカード決済が可能です。

▶<https://www.wakachiai.com/cloths/>



わかちあいプロジェクトについて

フェアトレードや難民支援活動を通して、開発途上国の人々を支える国際協力NGOです。私たちは1992年にドイツを訪れた際にフェアトレードのしくみを知り、日本で最初の国際フェアトレード認証コーヒー(カフェ・マム)の販売を開始しました。世界中から製品を取り寄せ、国内では最も多くの国際フェアトレード認証製品を取り扱っており、様々な地域の生産者の自立につなげています。また同じ頃、アフリカ・ソマリア難民救援をきっかけに継続的に難民支援活動に取り組み、現在までアジアやアフリカ、中東の難民生活を余儀なくされる方たちを支援しています。

- ① 国際フェアトレード認証製品の輸入、商品開発、販売
- ② 難民支援活動(古着支援、緊急支援)
- ③ 途上国の自立支援

Fair Select
FAIR TRADE ONLINE SHOP

わかちあいプロジェクトの
フェアトレードオンラインショップ
「Fair Select (フェアセレクト)」

お買い物で途上国の生産者の自立を支える
フェアトレードをぜひご利用ください。

フェアセレクト

検索

募金のご協力をお願いします

- ① 一般募金(わかちあいプロジェクトの活動全般をサポート)
- ② 古着支援募金
- ③ 難民支援募金
- ④ ミャンマー支援募金(避難民の支援、奨学金)
- ⑤ 南スーダン支援募金(Peace Palette活動支援)

募金の送付先 郵便振替口座

一般社団法人わかちあいプロジェクト募金
00120-4-386390

※通信欄に上記募金の種類をご記入ください

※振替用紙にご住所の明記がない場合や不鮮明であった場合、電信振替で住所が非表示の場合には、報告書等のお知らせをお送りすることができませんのでご注意ください。

わかちあいプロジェクトNEWS No.38

2023 April (年1回発行)

編集 一般社団法人わかちあいプロジェクト

デザイン Design Convivia

発行元 一般社団法人わかちあいプロジェクト
135-0001 東京都江東区毛利2-2-8誠和ビル
TEL: 03-3634-7809 FAX: 03-3634-7808



わかちあいプロジェクト

わかちあい プロジェクト NEWS No.38

2023 April



エチオピアコーヒー生産者



フェアトレードを始めよう

松木 傑 わかちあいプロジェクト代表

毎日の生活の中で手を休め、コーヒーや紅茶を飲み一片のチョコレートをつまむことは、ホッとさせる幸せな時間ではないでしょうか。そのとき私たちはそのコーヒー、紅茶、カカオ、砂糖がどこの誰によってつくられているまで思いがたりません。それらは発展途上国の農民の人たちによって作られています。

最近よく取り上げられていますSDGs(持続可能な開発目標)の柱は環境問題と南北の経済格差、貧困問題です。そのため目標の第1は、貧困をなくそうです。フェアトレードは市民レベルで取り組める、貧困への取り組みです。フェアトレードの基準を分かりやすく説明しますと、次の2点になります。

第1は商品ごとに最低買入れ価格を決めて、支払いを保証すること。第2は生産者への支払額の約10%を通常の支払と別に、奨励金として生産者団体に直接的に支払います。そのお金は農民の人たちが民主的、自主的に使用方法を決めます。

コーヒーがフェアトレードの主要な商品で、多くの途上国の主要な農産品です。フェアトレードコーヒーの最低買入れ価格：(1ドル135円で計算)1トン42万円 奨励金：6万円、9万円(有機の場合)20フィートコンテナには約18トンのコーヒー豆が積載されていますので、奨励金は108万、162万円(有機の場合)になります。どれだけ多額な支援になることでしょうか。

ウクライナ難民支援

LWF (ルーテル世界連盟) 2022年10月ニュースより

コミュニティベースの心理社会的支援

ウクライナでの戦争から8カ月が経ち、ポーランドの難民とホストコミュニティのニーズは変化しています。当初は主に現金支給による支援でしたが、現在は保護と社会的結束、そして教育の分野に拡大されています。

ウクライナからポーランドに入国する難民を支援するために設立されたポーランド全土の多目的支援センターのスタッフがビトムに集まり、コミュニティベースの心理社会的支援に関するワークショップが、ウクライナ難民スタッフも参加して実施されました。参加者は、さまざまな演習を通じて、メンタルヘルスと心理社会的サポート、心理的応急処置、人道的危機を乗り越えた人々を支えるための支援の原則を学びました。

右の写真ではウクライナのどの地域から来たかを地図にマークしています。

カティア・ハリトニクさん(37)と娘のソフィアさん(5)は一緒にアルファベットを練習しています。ポーランド人家族の家に60日滞在した後、彼女は現在、ビトムのポーランド教区にある

アウグスブルク告白福音教会の建物に娘と一緒に住んでいます。

「難民として、私たちは他の人々と話すとき、どのように一緒に暮らすことができるか、どのように成長できるか、仕事を見つけることができるか、そして戦争の恐怖の後にどのように生きることができるか話すことが必要です。また、他のすべてのセンターのスタッフに会えることにも興奮しています。私たちはすでにお互いにとても温かい関係と友情を築いていると感じています。それは素晴らしいことです」と彼女は言いました。



2022年2月25日ウクライナの侵攻による戦争をきっかけに800万人がウクライナから隣国のポーランドやハンガリーに逃れています。協力団体であるLWFは国連に協力してポーランドで難民への支援プロジェクトを行っています。皆様の募金は彼らの生活を支えるために使います。



2022年第30回古着報告

2022年度は、2,844箱 / 25,125kgの古着が集まりました。新型コロナウイルスで大変な状況の中、たくさんのご協力をありがとうございました。古着はリサイクルされて、東南アジア、マレーシア、タイ、カンボジアに輸出されました。

①リユース：45% 海外の古着需要国は赤道付近に多く春夏物が好まれ、冬

物需要は少ない為、必要な物を必要な国へ選別して出荷

②ウエス：20% リユースとして利用できない古着から油拭きに適する原料を選別し、整形カットを行い工業向けウエス(清掃布)として出荷

③反毛：35% ①②として利用できない主に冬物古着(コートやセーター)、それらをワタに戻しフェルト部品として自動車

内装材や建築資材へ、一部紡績糸に加工し軍手として出荷



ミャンマー教育支援

ミャー・リー カヤ・バプテスト教会

2021年2月に始まったミャンマー軍による支配が続いています。ミャーさんが住むカヤ州でも軍の支配により教会の事務所も破壊され、私たちがコーヒー栽培で支援した山岳地域も戦争状態が続いています。2015年に植えたコーヒーはすでに育っていると思いますが出荷の方法がありません。皆さんからの募金はミャーさんたちの支援活動のため使います。

今の状況

Kayah州(Karenni州)の多くの地域で政治的危機による暴力的な戦闘が増加したため、地元住民は戦闘地域から安全な場所に避難することを余儀なくされました。親戚がいる地域に逃げなければならなかった人もいれば、森や山にとどまらなければならなかった人もいました。

間違いなく、彼ら全員がこの政治的危機の大きな影響を受けており、食料、健康、教育などの基本的なニーズさえ彼らにとって課題となっています。特に、子供と老人は脆弱です。長期にわたる政治的混乱に伴い、戦争を逃れてきた人々も生活に落ち着きを取り戻してきました。

現在、多くの難民キャンプに子どもたちのための自立した学校が数多く建設され、学校としての教育活動が行われています。

私たちが実施する子供と若者の両方に関連する作業プログラムの中で、教育活



予防接種を受けています

ミャーさんと子供たち

動が優先されました。

必要な学校教材の寄付、ライブラリの構築、図書館に必要な書籍や文献を支援します。難民キャンプの子どもたちへの給食や予防接種などの活動が行われています。

しかし、寄付者の減少と寄付金の受領額が減少したため、活動はゆっくりとしたペースで行われています。とはいえ、寄

付者が少なく、支援物資の少ない僻地にも活動を広げていきたいと考えています。

活動内容

1. 教育プログラムと楽しいイベントの提供
2. 栄養補給と予防接種
3. 文房具補助
4. ミニライブラリの提供

この地域の人たちにとって必要なことなので、できる限り実行したいと思います。

南スーダン スポーツによる民族和解

デビット・ヴィンセント ビースパレット共同設立者

ピースパレットはカクマの難民であったデビッドが、2000年にオーストラリアに移住し大学教育を受けたのちに設立したNGOです。現在デビッドは南スーダン国内で活動しています。わかちあいプロジェクトは、1993年から2003年までカクマ難民キャンプ(ケニヤ北西部)で活動していました。

スポーツ・フォー・ピースの影響

何百人もの若いアスリートが2017年から現在までSport for Peaceに参加してきました。私たちは和解のための架け橋をもたらすだけでなく、選手の技術の向上のためにトレーニングを行っています。バスケットボールの奨学金を得た選手は、さらに別の機会を得ています。

イベント活動

プログラムの20分前にバスケットボールの試合が開始されました。

Sport for Peaceは積極的な考えと行動をもたらすだけでなく、寛容、尊

敬、忍耐力、回復力、公平性、連帯の促進にも貢献しています。

参加者は、スポーツによる平和構築活動によって、自分の可能性を実現するために成長を遂げました。Sport for Peaceは、文化の違いや政治的な違いに関係なく、Twic、Ruweng、Abyei、Gogrial、Tonj、Wauなどの隣接するコミュニティ間に、地理的な境界、民族の違い、社会的地位の壁を越えて平和の架け橋を築きました。

また、4人の政府関係者が式典に出席

し、「ピースパレットは米国、カナダ、その他の国のプレーヤーに奨学金を提供するための重要な役割を果たしている」と述べました。

